

平成14年4月1日

お取引先各位

株式会社唐房米穀
代表取締役社長 横山健司

品質宣言

謹啓 桜花の候、貴社いよいよご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございます。

さて、BSE(いわゆる狂牛病)問題に端を発した一連の牛肉の不正表示問題は、過去の不正をも露呈することとなり、さらに、豚肉、鶏肉などにおいても不正が発覚し、精肉業界全体の問題と拡大するに至りました。また、不正摘発は野菜など他の生鮮食品業者にも及び、今や食品業界全体の大きな問題となっております。利益、効率一辺倒な経営の在り方や無理な価格設定、企業人としての認識の欠如がこのような事態を招いたものと思われま

す。残念ながら、弊社が属しております米穀業界もその例外ではありません。昨年より精白米についてもJAS(日本農林規格)法が適用されるようになり、その表示方法も大きく変わりました。それに伴い罰則も従来より厳しいものとなっております。にもかかわらず、安価な、質の悪い米を混ぜて差益を得ようと、偽装表示する業者が後を絶ちません。

このような状況を目の当たりにしますと、一般消費者はもちろんのこと、販売活動に携わっておられる方々が仕入商品に対して不信感を抱かれることも当然のことだと思います。そのお気持ちをどれほど払拭できるかは分かりませんが、弊社としての考えを一言述べさせていただきます。

弊社は、三十有余年、米穀業を営んで参りました。その中で、我々の責務は自分たちの家族、世の人々への「主食としての米」を十分に供給することであり、なおかつそこに美味しさと健康が伴うものを作らんと尽力して参りました。また、消費者と生産者の間にあって、安全でおいしい米を作って頂くよう農家の方々へ訴え、お願いして参りました。

弊社は精米業者、即ち米の製造業者でもあります。仕事は素材選びから始まります。そしてその素材の持ち味をどのようにして引き出すかが我々の腕の見せどころです。その意味で、搗精してできた米は「商品」ではなく、いわば「作品」です。玄米は「原料」ではなく、「素材」なのです。店頭には並んだ一袋一袋、いや、一粒一粒が唐房米穀の「作品」です。製作者としての誇りを持って工場より送り出しております。商品そのものが宣伝媒体であるとも思っております。このような考えをもって、敢えてそこに何かしらの小細工をすることは、自らを貶め、我作品を辱めることに等しいものであると感じます。

唐房米穀は、これまで通り、法に則り、道義心に基き、適正な表示をし、間違いのない商品を皆様のもとにお届けすることを改めて申し上げる次第でございます。今後ともご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

謹白